

視聴覚教育

# 月報

NO.10

発行日	32. 11. 30
発行	岡崎市小中協協会
編集	視聴覚教育協部
編集	調査部
印刷	岡崎市明大寺町
	アサヒ印刷社
	TEL 340, 2592

## 第五回視覚教育

# 全国大会に参加して

岩津中 犬塚恒夫

十月二四日から三日間、福島県福島市で文部省福島県市両教育委員会、日本学校視覚教育連盟、福島大学主催の学校視覚教育全国大会が開かれ、深津美川中学、早川常磐小学両校長先生と共に出席させてもらった。東北地方の辺鄙な一都市で開催されたのにもかかわらず、南は九州北は北海道から特に宮崎県からは約十名の人が参加し数百名が集まった大会には驚いた。初日二四日形式通り県、市の大会関係者の開会の辞に始まり、佐渡福島県知事、林谷福島市長の祝辞、日程の説明があり、十日より十二時まで「学校視覚教育の拡大と深化」と題して、東京大講師関野嘉雄氏の講演が行われた。大体の論旨は「戦後十年の視覚教育は地域や学校内でも大きな差を作ってしまった。活発な地域、学校では益々発展してゆき、視聴覚をとり入れていない。

地域、学校、先生はいまだにそのまゝである。これは何かその進め方に不備があったと思う。勿論経済的、政治的な困難点はあるであろうが、良心的な学校進歩的な教師ならば教えようとすする教材を視覚感覚にうつたえて、事象を把握させ、生徒の理解度をひろめ、教育の効果をあげてゆかねばならぬのに。校内に一人の堪能な物ずきがおるおらぬとか、係にまかせきりなどの事が原因では、又新教育と口ではいいうが、実際は傍観し

ているのではないだろうか。——戦後叫ばれて来た幾多の新しい教育法、例えば綴方教育、芸術教育などがあるが互に自分の領域を固執せず、進んでこれ等のものと手をついて進めるべきである。」と結ばれた。

ついで一時より学校視覚教育の現状と問題点と題して関野氏、岩間文部省視聴覚課長、岡山福島県教委指導主事、福島市内の先生などが話題提供者となってパネル式オリエンテーションが



もたれ当福島市が当面している問題点が論ぜられ、二時より五会場に分れて第一分科会が夕方近くまで討議された。

次いで二五日は午前中小中高の各学校の三会場に分れて、授業参観を行い、午後はそれぞれ分科会に分れて分科会がもようされた。

第三日、二六日は第一日の大会場でお茶の水女子大波多野完治教授の「視聴覚精神の基礎に立って」と題する講演があり、分科会の報告ついで波多野関野両氏の分科会を中心とした指導的対談を聞き、十一時から閉会式で全大会を終了した。帰りの東北本線の急行車中で岡崎の現状はと考えてみたが全国的にみて、おくれではないと思ふ。而し満心は禁物である。

前年度の社会理科との合同研究のカリキラムに従って全市一丸となって堅実に研究し一段一段とつみあげてゆけば大丈夫と思ふ。又西三とか県内の各ライブラリーが互に連絡し研究物の交換、協議会の結成も大切と思ふ。

# 12月教材映画

フィルム名 火事をなくする仕組み  
 適用学年 二年 社会科 (二〇分)

内容 火事を防ぐために、消防署が  
 どのような活動をしているかを知らせ、今後  
 の防火対策上の問題を考えさせようとし  
 ている。

使用法 本単元では、次の二点で使用  
 できる。(一)火事の恐しさを知らせる。  
 火事を体験している子供はまれである。  
 学習の手はじめにこの映画を利用して、  
 火事の恐しさを知らせることは、学習の第一  
 段階である。

内 容 (一)しょうぼうふの活動。火災の現場で、  
 (二)しょうぼうふがどんな活動をするかを見  
 ている子供は殆んどない。しょうぼうふ  
 の働きを中心として、どの設備がどんな  
 役に立つのかをしっかりとつかませたい。  
 フィルム名 道路のはたらき (二〇分)

適用学年 四年 社会科  
 単元 交通の昔と今  
 (道路のはたらき)

内 容 道路と生産の立場から考えさ  
 せようとしたもので、それが生産を高め  
 るためには、今後道路の改修や拡張をど  
 うしなければならぬかを理解させよう  
 としている。  
 使用法 本単元を扱う立場によって次  
 の二つが考えられる。

フィルム名 鉄道電化 (二〇分)  
 適用学年 四年 社会科

内容 交通の昔と今 (鉄道輸送)  
 電化によって輸送力が増大し、  
 それが我々の生活とどうむすびついてい  
 るかを考えさせようとしている。

使用法 輸送力の増強が我々の生活に  
 どうなっているかを具体的に理解させ、  
 逆に電化ということの意義を考えさせる  
 ようにしたい。

フィルム名 動物の生長 (一〇分)  
 適用学年 一年 理科

内容 動物の子供  
 子供を生む犬と牛、卵を生む  
 鶏ととりをとり上げ、どのように生育し  
 ていくかをえがいたものである。

使用法 学習に興味をもたせ、問題を  
 もたせるために、最初に使用するとよい。  
 生れた時の状態、餌のとり方、生育して  
 いく様子を話し合っして学習を進めること  
 が出来る。

フィルム名 冬を越す動物 (一〇分)  
 適用学年 四年 理科  
 生き物の冬ごし

内 容 卵で冬を越すものや、そのま  
 まの形で越すもの。樹上のもの、かれ草  
 の下にいるもの、土中にもぐるもの、ほ  
 ら穴にいるものなど、それぞれ代表的な  
 ものを取り上げ、その冬ごしの特色がよ  
 く分るようにつづされていく。

使用法 動物の冬ごしの様子は、中々  
 見られないものであるから、まずこの映  
 画を子供に見せてから、学習を進めるよ  
 うにしたい。

フィルム名 木の着物の着物  
 適用学年 五年 理科 (二〇分)

内 容 布は何から作るか  
 わかりを知らせ、木材を原料とした繊維  
 レーヨンやスフの製造過程、又石灰石や  
 石灰からつくる化学繊維ビロンの製法  
 を紹介したもの。

使用法 人絹、スフや化学繊維の原料が材木や石  
 灰石、石灰であることは子供には理解出  
 来ない。従って本映画によって原料と製  
 品との関係をはっきりつかませて、学習  
 意欲をかき立てから学習を進めるのが  
 よい。但し細い製造工程などを取り扱う  
 のは適当でない。





くたびれた  
映写機に  
むちうたれて

本校の視聴覚施設としては、  
映写機・幻灯機・テーブコーダ  
、校内放送設備・紙芝居等  
があるが、映写機は昭和二十五年  
購入の元老とまではいえないが  
まあ若年寄級の品物ではあるの  
に、よく視覚教育に尽し、本当  
に骨を削って働いてくれ、現  
在は映写前に試写しておかない  
と無声であったり、スト断行の  
恐れがあり、しかも小・中共有  
で活用している。

暗幕設備は二十九年に家庭科  
室に赤・黒の物が出来るまでは  
講堂の南豆袋に近い重いのを使  
用していたが、家庭科室専用の

暗幕がPTAの尽力で設備出来  
たことは、不備な視覚施設を  
以前より倍加して活用出来るよ  
うにしてくれた。学年単位で教  
材フィルムを使用するには、最  
適の場所だが、出来れば映写機  
の格納庫が家庭科室に設置され  
たら、準備に要する時間と労力  
は半減されらうに、現在は宿  
直室に保管して一々運搬してい  
てはならぬ。一方で準備してい  
る間に一人が導入として、児童  
と話し合ったり、関連ある音楽  
や図書で空白な時間を作らぬ苦  
心をする。映写時間十五分位だ  
と準備の方が多くなってしま  
うこともある。しかも低学年の場  
合は映画では動きが早く解説が  
充分理解出来ないで、幻灯の方  
が効果が上る教材が多いよう  
に思われることや、学年が合同  
することによって、児童の気分  
がゆるみ落着きを欠くことに、  
注意して対策を考えなくては、  
映写後の学習がいかにされないこ  
とを時々反省させられる。児童  
は「映画をやるから静かに行く  
のだよ」といわれると、いつも  
の集合よりは早く静かに整列し  
裁台のかたづけや暗幕引きを進  
んでやる。この興味と喜びを正  
しく伸ばしてやる為にも、教材  
研究や技術について、教師は自  
分の能力を充分発揮しなくては  
ならぬ。くたびれた映写機が全  
能力で動いてくれることを思う

と、どうやら機械を扱う人間の  
方が、我が身に鞭打って視覚教  
育に精進しなくてはならぬよう  
だ。本校の視聴覚施設の使用状況  
を見て、テーブコーダーや幻灯  
機、紙芝居は映写機に比べよく  
活用されていることを思う時、  
なにか原因がある。その中には  
準備の時間・映画教材の研究不  
足・故障等色々あるが、故障の  
時は誰でも原因が解って直すこ  
とも出来ないで、授業中に見  
てもらう事は心苦しいが、気易  
く協力していただけたら、全員

ライブラリーだより

視聴覚教育の基盤とも言うべき図書の御紹介をいたします。  
「社会科学教材研究」単元構成の理論と実際(矢口新著)  
法政大学出版局発行国立教育研究所員、中央教育研究所理事  
として戦後社会科学教育の指導的役割を果たされた矢口新氏が富  
山県滑川市北加積小学校を実験学校として昭和二十五年以後  
七年間に及ぶ実際指導の成果を一冊にまとめたもの、内容は  
「社会学習の本質」「社会学習の基本方式」「社会学習の形  
態」「社会学習の教材」「地理学習」「歴史学習」「道徳の  
学習」「社会学習の教材研究」「単元の改造と教師の教材研  
究」「道徳教材の研究」の十章よりなり社会科学単元展開の  
理論的考察がなされているが本書の中心となつてゐるのは第  
八章の「社会科学学習の教材研究」で北加積小学校の単元構成  
を事例として二三八頁をついやして農業の問題保健の問題を  
中心に教材の位置づけをしてゐる。また第四章「社会科学習  
の教材」では視聴覚教材を積極的に取りあけるなど従来の社  
会科教材研究者には見られない新味を持つてゐると思はれます。  
フィルムをどんなに使用したらよいか、この問題は一度に解  
決されず。

の先生が技術者講習会に出席さ  
れて、取扱ひは一応出来るよう  
に研究されたことは嬉しく心強  
い事であるが、今後に残された  
課題は多く、失敗や心ひそかに  
よくやれたと思う体験を交換す  
るような機会を、小さい集いで  
もよいから持ちたいと思ひ、本  
校の状況についてみると話し合  
う時間もなくて書いてみる。次  
のりルは現場で視聴覚教育と取組  
んでゐる生の姿と交換して、そ  
れぞれの環境に於て活用出来る  
ような物がほしいと願う。

# 新購入フィルム紹介

昭和三十一年度  
一期分  
その二

映写時間 十二分

小学校高学年中学校向

○多くの楽器で演奏されるオーケストラについて解説している。

○木管楽器 フルート、ピッコロ、クラリネット、イングリッシュホルン、バスーン等

○金管楽器 トランペット、ホルン、チューバ等

○打楽器 ティンパニ、タンバリン、ビブラホン等

○弦楽器 バイオリン、ピオラチエロ、ダブルベース等

○各楽器の特徴を一つ一つ述べ各楽器毎に合奏が入り最後にオーケストラの配置を解説し演奏を以って終っている

## 姫路城

映写時間 二十一分

中学校向

○姫路城の歴史と現在の姿をありのまゝに見る事ができる。

○機上より姫路城の位置を知らせ何故、城が必要かをよく

○姫路城の歴史について紹介している。

○姫路城の内容

1. 千姫由来の堀

○空気の圧力

○空気利用例

・帆走、その他

○空気に重さがある

・天秤による重さの実験

・量かふえると軽い空気でも動くなる。——象三頭

分位の重さがかかっていること。

## 理科

### 「空気の力」 一卷(十分)

○徳川三百年間にも変化なくその後城下町として人口一五万の現在の姫路市に発展したものと成る姫路城の姿を、つぶさに見る事が出来る。

2. イの門、ロの門、ハの門の門、ホの門と天守閣に近くなるにつれ防禦する態勢が見られる。

3. 城の土台となる石垣

4. 天守閣の外見と内部

5. 三重の堀について

いたる所に見られる建築美とよく工夫されている点に注意しなければならぬ。

○徳川三百年間にも変化なくその後城下町として人口一五万の現在の姫路市に発展したものと成る姫路城の姿を、つぶさに見る事が出来る。

○空気の流れ——風

・冷い所から暖い方へ

氷塊↓線香

・空気の流れが風である

・風を利用した凧の上る原理

風洞実験——揚力の説明

○空気の圧搾と膨張

・エアハンマー

・ドアー・エンジン

・ブレイキ等

## 体育

### 「とび箱」 一卷(十卷)

○とびあがりおり

・とび箱の基本であること

・練習の仕方

△とび箱を三台おいてとぶ方法

△斜からとぶ方法等

○うで立てとびこし

・開脚、閉脚のあること

・ふみきり、手の位置、着陸の方法、走る距離等

○あおむきとび

・片足ふみきり

・姿勢等

○その他の方法

・とうりつ

・てんかい等

○もはん演技  
○練習の時はきまりをよくまもって秩序よくやること。

あとがき

朝夕めっきり冷えこんでもう師走の声が聞かれる様になりました。

二期もあと残り少なくなりましたが、教材映画の使用も軌道にのり真に喜ばしいと思います。今後も大いに利用していただきます。

